

科目名	幼児と健康				担当者名	白金 俊二	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	26Y23A01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	「健康」とは何かを大きな主題として、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などについての知識を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の身体的な諸機能の発達や健康課題等について説明できる。 ・ 幼児の安全な生活とけがや病気の予防について理解ができる。 ・ 幼児の運動発達の特徴と意義を理解できる。 						
授業計画	回	内 容					
	1	健康の定義と乳幼児期の健康課題について					
	2	乳幼児期の体の発達のな特徴と乳幼児の生活習慣の形成について					
	3	幼児にとっての危険な場所や行動・遊び方について					
	4	幼児期のけがの特徴と病気の予防について					
	5	乳幼児の安全教育および安全管理について					
	6	乳幼児期の運動発達の特徴および多様な動きの獲得と意義について					
	7	幼児の日常生活における動きと身体活動のあり方について					
	8	乳幼児の健康管理と保育所の役割について					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準			割合		
	筆記試験	正答率			70%		
	課題レポート	課題の主旨に沿って適切にまとめられたか			30%		
教科書	保育内容 健康 【新版】（北大路書房）						
参考図書	幼児期運動指針（文部科学省）幼稚園教育要領解説（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）						
準備学習	予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却をする						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者						

科目名	幼児と人間関係				担当者名	高田 俊輔	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	26Y23A02	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景及び現代的課題について解説したうえで、乳児期に育つ人と関わる力の発達や幼児期に育つ人と関わる力の発達について学習する。						
到達目標	自立心や協調性の育ち及び道徳性や規範意識の芽生えと発達について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴について					
	2	乳児期に育つ人と関わる力の発達について					
	3	幼児期に育つ人と関わる力の発達について					
	4	自立心の育ちと発達について					
	5	協同性の育ちと発達について					
	6	道徳性や規範意識の芽生えと発達について					
	7	家族や地域のかかわりと育ちについて					
	8	まとめディスカッション					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準			割合		
	最終レポート課題	授業全体の内容を理解し、保育・幼児教育への考察を深められていたかを確認する。			100%		
					%		
					%		
教科書	教科書は特に指定しないが、授業内で適宜参考文献を紹介する。						
参考図書	『幼稚園教育要領』（平成29年3月文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月厚生労働省） 『新・保育実践を支える 人間関係』成田朋子編 福村出版						
準備学習	適宜、『幼稚園教育要領』および『保育所保育指針』を参照することが望ましい。						
課題等に対するフィードバック方法	授業の冒頭において、いくつかのミニレポートを匿名で紹介する予定である。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	教員免許状更新講習研修講師（令和3年11月）						

科目名	幼児と環境					担当者名	佐竹貴明
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	26Y23A03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・②
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育における「環境を通した教育」の理念を踏まえ、幼児と環境との関わりや環境構成の基本的な考え方について理解する。 ・遊びや活動を題材に、空間・物・人・ルールなどの要素を分析し、幼児の学びを支える環境の構造について検討する。 ・具体的な遊びや活動（例：ルールのある遊びなど）を通して、幼児の思考や探究を促す環境構成のあり方を演習形式で探究する。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育における「環境を通した教育」の考え方を踏まえ、幼児と環境との相互作用について包括的に理解する。 ・幼児の遊びや活動を成立させている空間・物・人・ルールなどの要素を分析し、環境構成の視点から捉えることができる。 ・具体的な遊びや活動を例に、幼児の学びや思考の芽生えを促す環境構成のあり方を構想できる。 						
授業計画	回	内 容					
	1	幼児教育における「環境を通した教育」の理念と、幼児と環境との関わり方の理解					
	2	環境構成の基本的視点と幼児の遊びとの関係					
	3	幼児の遊びを支える環境の要素の分析					
	4	自然や身近な事物との関わりを促す環境構成の考え方					
	5	ルールのある遊びの体験と分析					
	6	遊びのルールや条件を変えることによる環境構成の工夫					
	7	幼児の学びを促す環境構成の計画（遊びや活動の設計）					
	8	環境構成の計画の発表と振り返り（学びの整理・まとめ）					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	授業の振り返り	コメントペーパー				10%	
	提出物	各回で提示するワークシート				60%	
	授業態度					10%	
	最終テストあるいはレポート	まとめのレポート				20%	
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1時間～2時間程度を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		幼児と表現（音楽表現）				担当者名	浅倉 恵子 村椿彬子
		選択					
ナンバリング		26Y23B05	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		手遊びを導入として展開する幼児の音楽表現活動の援助法を、実践的に学ぶ。					
到達目標		手遊びを導入とする幼児の音楽表現活動の援助法を身につける。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	手遊びの保育展開法を学ぶ。					
	2	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（1）					
	3	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（2）					
	4	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（3）					
	5	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（4）					
	6	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（5）					
	7	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（6）					
	8	手遊びの模擬保育と音楽身体表現遊び（7）					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		平常点評価		授業への取り組み姿勢、音楽表現を評価する		60%	
				模擬保育の準備と実施		40%	
						%	
						%	
教科書		『手遊びから音楽身体表現あそびへー指導案で示した保育の展開例ー』浅倉恵子、風詠社、2020年 『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年					
参考図書							
準備学習		模擬保育を担当するときは、準備物を工夫し、準備・練習する。					
課題等に対するフィードバック方法		模擬保育についてはその都度講評、解説を行う。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習およびピアノの練習に1～4時間を奨励する。					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	幼児と表現（造形表現）				担当者名	猪瀬 昌延	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	26Y23B06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1③
授業内容	造形素材や用具の安全で正しい使い方を学び、実践としての造形活動を行う。既存の画材や技法に執着することなく、柔軟的で応用的な造形活動を実践する。子どもの造形表現に対して支援者としての役割を考える。						
到達目標	様々な造形素材や基本的な用具の正しい使い方を学ぶと共に、工夫や自分らしさの発見、さらには身体感覚としての主体的活動の理解ができるようになる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「造形表現」について考える					
	2	領域「造形表現」と幼児の発達段階の考察:身体と創造					
	3	表現と技法Ⅰ画材の知識（描画材）：色遊びと実践					
	4	表現と技法Ⅱ画材の知識（色彩）：色の組み合わせと世界の創出					
	5	表現と技法Ⅲ造形の知識（基礎造形）：粘性素材の可能性					
	6	表現と技法Ⅳ造形の知識（造形応用）：線から量への展開					
	7	表現と技法Ⅴ（表出から表現の展開）：造るものと創られるもの					
	8	領域「造形表現」の展開と可能性：まとめ					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準			割合		
	平常点評価	授業への意欲的取り組み姿勢を評価する			50%		
	課題提出	創造的な制作と積極性			50%		
教科書	「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「保育をひらく造形表現」槇英子 萌文書林						
参考図書	随時紹介する。						
準備学習	あらかじめ教科書等に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題の提出時に講評会を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	毎回の授業の復習に1～2時間を奨励する。						
その他 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 各授業において指定する用具や素材を各自準備すること。なお指定した用具等を当日に忘れた場合は、欠席扱いになることがある。 課題に応じて材料費が必要となる事がある。 その他、必要に応じて周知する 						
実務経験と資格等	現職:信州大学教育学部准教授 ※中学校・高等学校(美術・工芸)専修免許状を所持し教員実務経験をもつ。						

科目名	教育心理学					担当者名	三和 秀平
	幼2種（必修）						
ナンバリング	26Y23B07	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	心身の発達の過程と特徴及び発達概念と教育における発達理解の意義、様々な学習形態と概念や過程を解説したうえで、主体的な学習を支える動機づけや集団づくりと学習評価のあり方及び指導の基礎を学習する。						
到達目標	主体的な学習活動を支える指導と考え方について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	心身の発達の過程と特徴について					
	3	心身の発達に対する外的及び内的要因について					
	4	外的要因と内的要因の相互作用について					
	5	発達概念と教育における発達理解の意義について					
	6	乳幼児期から青年期における運動発達について					
	7	乳幼児期から青年期における認知発達について					
	8	乳幼児期から青年期における社会性の発達について					
	9	発達を踏まえた学習を支える指導について					
	10	様々な学習形態と概念及び過程について					
	11	主体的な学習活動を支える動機づけについて					
	12	主体的な学習活動を支える集団づくりについて					
	13	主体的な学習活動を支える学習評価のあり方について					
	14	主体的な学習活動を支える指導と考え方について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	参加態度、課題	授業への参加意欲、取り組みの姿勢を評価する。				30%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出されているかを評価する。				70%	
教科書	教育心理学（やさしく学ぶ教職課程），児玉 佳一（編集），学文社						
参考図書	随時紹介する。						
準備学習	授業に提示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき，あらかじめ教科書に目を通し，予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	次回の授業でフィードバックを行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						

その他 留意事項	原則として紙の資料の配布は行わず、オンライン上で資料を配布する。 オンラインで作業することもあるため、パソコンを持参することが望ましい。
実務経験と資格等	信州大学教育学部准教授, 博士(心理学)

科目名		保育の心理学				担当者名	中野 明子
		保育士（必修）					
ナンバリング		26Y23B08	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期
授業内容		身体発達、認知、言語、情動、社会性等の発達過程やその基盤にある発達のしくみや理論、発達の遅れや偏りに関する基本的な知識を得るとともに、子どもの発達をうながす人との関係や保育環境について学ぶ。					
到達目標		保育実践に関わる発達理論等の基礎的な知識を習得する。 発達を捉える視点を獲得し、子どもの学びを支える保育実践について理解を深める。 乳幼児期の子どもの学びが人との関係を基盤として環境を通して行われることを理解する。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	子どもの発達を理解する意義について					
	3	子どもの発達の特徴と環境について					
	4	発達理解の現代的な視点について					
	5	発達支援の総合的な視点について					
	6	乳幼児期の社会情動的発達について					
	7	身体的機能と運動機能の発達について					
	8	認知の発達過程について					
	9	言語の発達傾向について					
	10	発達に遅れや偏りがある子どもの理解と支援について					
	11	発達段階ごとの特徴と課題について					
	12	乳幼児期の学びに関する理論について					
	13	乳幼児期の学びの過程と特性について					
	14	乳幼児期の学びを支える保育実践について					
15	授業のまとめ（担当：全教員）						
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		授業への積極的な取り組み		授業への積極的な取り組み		30%	
		課題		授業の中での課題		20%	
		筆記試験		問題の正答率		50%	
教科書		教科書は使用しない					
参考図書		授業中に紹介する					
準備学習		事前に提示された課題を授業の開始前までに行っておくこと					
課題等に対するフィードバック方法		授業中に解説を行うとともに、提出された課題の返却時にはフィードバックを行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		特別支援教育・保育論 I				担当者名	奥村 真衣子
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		26Y23B09	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における「特別な支援を必要とする子ども」について学ぶ ・特別な支援を必要とする子どもの実態について、様々な事例から考える ・特別な支援を必要とする子どもの支援方法について学ぶ ・特別な支援を必要とする子どもの保護者へのかかわりについて学ぶ ・特別な支援における他機関との連携について学ぶ 					
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする子どもの教育体制を理解する ・特別な支援を必要とする子どもの支援の方法を理解する ・特別な支援を必要とする子どもの家族に対する支援方法および地域の専門機関との連携方法を理解する 					
授業計画	回	内 容					
	1	特別支援教育に関する制度の理念と仕組み及び歴史について					
	2	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解					
	3	特別の支援を必要とする幼児の心身の発達と学習の過程について					
	4	特別の支援を必要とする幼児に対する支援の方法について					
	5	通級指導及び自立支援の教育課程上の位置づけと内容について					
	6	個別の指導計画及び教育支援計画の作成の意義と方法について					
	7	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援					
	8	地域の専門機関との連携、小学校等との連携					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		授業の振り返り		授業の振り返り		30%	
		授業態度		授業への積極的参加、予習復習（反転授業）の励行		20%	
		最終課題		（テストあるいはレポート）		50%	
教科書		公益財団法人児童育成協会監修，西村重稀・水田敏郎編集『障害児保育第2版』（中央法規出版）					
参考図書		杉中拓央・呉裁喜・松浦孝明編集『教職をめざす人のための特別支援教育 基礎から学べる子どもの理解と支援』（福村出版）					
準備学習		あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。					
課題等に対するフィードバック方法		適宜指示する					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1時間～2時間程度を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等		臨床発達心理士・公認心理師として、乳幼児健診における心理相談員、就学前療育機関における療育指導員、小学校・中学校・特別支援学校におけるニーズのある子どもへのコンサルテーション支援に従事。					

科目名	保育・教育課程論					担当者名	杉浦 英樹
	必修						
ナンバリング	26Y23A10	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・③④
授業内容	就学前保育・教育の意義と施設の役割について確かめるとともに、幼稚園教育要領と保育所保育指針保育を用いて保育・教育の基本、ねらい及び内容等に関する基本的知識を習得する。教育課程・指導計画の意義について理解し、実践の振り返りを介して保育・教育の質を高める必要性について学ぶ。						
到達目標	幼稚園教育要領と保育所保育指針に記された内容を理解する。また、指導計画の作成にあたっては園の一人ひとりの幼児や遊び・活動についての深い理解を基盤として「具体的に書く」ことが求められることから、それができるようにするための実際的な視点と方法を学び、今後の実習等で活用できるようにする。						
授業計画	回						
	1	幼稚園教育の意義と幼稚園教育要領の法制上の位置					
	2	幼稚園教育の基本／遊びを通した総合的な指導					
	3	保育の目的・目標・ねらいと「子どもの姿」					
	4	教育課程の役割と編成等、カリキュラム・マネジメント					
	5	教育計画の構造、作成上の基本的事項と留意事項／「具体的に書く」とは①					
	6	幼児理解に基づいた評価、特別な配慮を必要とする幼児への指導／「具体的に書く」とは②					
	7	5領域のねらい及び内容、幼稚園における預かり保育と子育て支援／「具体的に書く」とは③					
	8	幼稚園教育要領のまとめ／「具体的に書く」実践（1）					
	9	保育所保育の意義と保育所保育指針の法制上の位置、基本原則／保育を必要とする事由					
	10	養護に関する基本的事項、保育計画の作成と評価／「養護」と「教育」					
	11	保育の内容① 乳児保育に関わるねらい及び内容					
	12	保育の内容② 1歳以上3歳未満児の保育、3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容					
	13	健康及び安全／健康支援、食育の推進、衛生管理・事故防止、災害への備えと対応					
	14	保育所における子育て支援、職員の資質向上・研修					
15	保育所保育指針のまとめ／「具体的に書く」実践（2）						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	授業態度	授業への積極的な取り組み				20%	
	課題	授業中の課題（提出された文章の内容）				30%	
	筆記試験	幼稚園教育要領と保育所保育指針の理解ならびに記述問題の回答内容				50%	
						100%	
教科書	河邊貴子著『新3法令対応 幼児教育・保育カリキュラム論』東京書籍						
参考図書	杉浦英樹編『遊び込む子どもを支える幼稚園カリキュラム：未来の幼児教育・保育のために』学文社						
準備学習	授業内容を復習し、配布した確認問題とその回答は必ずファイリングしておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題を返却する場合、授業中に解説を行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	時間は特に指定しないが、自身にとって最大限の成果が得られる準備学習を推奨する						
その他 留意事項	指定された保育施設における観察実習の体験を大切にしてほしい						
実務経験と資格等							

科目名	幼児理解					担当者名	上原 貴夫
	幼2種（必修）						
ナンバリング	26Y23B11	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼児理解の意義と発達や学びを捉える原理について解説し、幼児理解のための観察や記録の意義や目的に応じた観察法、幼児の生活や遊びの実態に即して、対応方法について学習する。						
到達目標	幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずきと、その要因を把握するための原理や対応の方法について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児理解の意義と発達や学びの捉え方について					
	2	幼児理解を深める保育者の基本的姿勢について					
	3	幼児理解の方法（1）観察と記録の意義と目的					
	4	幼児理解の方法（2）目的に応じた観察法					
	5	幼児理解の方法（3）省察と評価の意義と目的					
	6	幼児理解の方法（4）個と集団の関係を捉える意義と方法					
	7	幼児理解の方法（5）幼児の葛藤やつまずきの理解と支援					
	8	幼児理解の方法（6）保護者の支援と家庭支援					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	課題提出	課題について主旨を的確に理解し、適切な方法で表現できて提出できていること。				20%	
	レポート	課題について調べて適切にまとめられて提出できていること。				20%	
	試験	課題の正答率				60%	
教科書	教科書「子ども理解と観察」（大久保・梶田編著 ななみ書房）を使用。他に授業中に適宜資料を配付する。						
参考図書	平成29告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
準備学習	新聞記事や書籍などを活用して幼児についての興味や関心を高める。						
課題等に対するフィードバック方法	講義の中で取り上げていく。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	学習や研究、活動に主体的に取り組むこと。						
実務経験と資格等	博士(教育学)。長野県短期大学名誉教授。第一種幼稚園教諭、保育士、第一種小学校教諭、学校心理士、上級教育カウンセラー						

科目名	社会的養護 I				担当者名	比田井 友香	
	保育士（必修）						
ナンバリング	26Y23A12	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・②
授業内容	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について概説したうえで、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の原則及び社会的養護における保育士等の倫理と責務について解説する。そのうえで、社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的対象や形態と関係する専門職等、社会的養護に関する社会的状況や課題について学習する。						
到達目標	社会的養護の制度や法体系と仕組みや実施体系及び社会的対象や形態と関係する専門職等、その社会的状況や課題について理解できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	社会的養護の理念と概念及び歴史の変遷について					
	3	子どもの人権擁護と社会的養護について					
	4	社会的養護の基本原則について					
	5	社会的養護における保育士等の倫理と責務について					
	6	社会的養護の制度と法体系について					
	7	社会的養護の仕組みと実施体系について					
	8	社会的養護の対象について					
	9	家庭養護と施設養護について					
	10	社会的養護に関わる専門職について					
	11	社会的養護に関する社会的状況について					
	12	施設等の運営管理について					
	13	被措置児童等の虐待防止について					
	14	社会的養護と地域福祉について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価			30%	
		中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価			30%	
		試験	問題の正答率			40%	
教科書	『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護 I 第2版』（2025年3月1日）株式会社みらい						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士						

科目名	乳児保育 I					担当者名	橋本 佳美
	保育士 (必修)						
ナンバリング	26Y23B13	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	乳児保育の意義と目的や歴史の変遷及び乳児保育の役割と機能について概説する。また、保育所や乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について考察する。そのうえで、3歳未満児の発育や発達を踏まえた保育の内容と援助や配慮及び運営体制について学ぶとともに、乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働について学習する。						
到達目標	①乳児保育はなぜ必要か、乳児保育における保育士の役割について自分の意見を述べることができる。 ②乳児保育における職員間の連携・協働と保護者及び自治体や地域の関係機関等との連携・協働の意味を説明できる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	①授業の目的と概要について 乳児保育の意義・目的と役割					
	2	②0歳児の発育・発達1 身体・生理的機能の発育・発達 乳児とはどのようなヒトか 乳児期前期の子どもの発育発達と保育					
	3	③0歳児の発育・発達2 乳児期後期の子どもの生活と必要な保育 基本的な生活習慣、生活リズム					
	4	④1-3歳未満児の発育・発達1 保育 保育所保育指針における乳児保育のポイント					
	5	⑤1-3歳児の発育・発達2 生活リズム：睡眠、食事、排泄、遊び					
	6	⑥乳児保育における生活1 睡眠と生活リズム、食事 保育と生活環境 ①-⑤の復習					
	7	⑦乳児保育における生活2、保育士による援助やかかわり1 発達の促進					
	8	⑧乳児保育における保育士等による援助やかかわり、配慮、職員間の連携・協働					
	9	⑨3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について 保育所及び保育所以外の児童福祉施設における乳児保育					
	10	⑩乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる現状と課題について					
	11	⑪3歳以上児の保育に移行する時期の保育について 情報の共有と記録の必要性					
	12	⑫乳児保育における記録の必要性 連絡帳 保育計画					
	13	⑬乳児保育における連携と協働 家族、他機関との連携					
	14	⑭乳児保育における養護と教育の考え方 子どもの最善の利益をまもるために					
15	⑮授業のまとめ 乳児保育の必要性 保育者に求められる役割						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割 合	
		課題提出	課題が自分の言葉で考察されて記述できている			30%	
		試験	問題の正答率			60%	
		授業参加態度	発言したり提案したりできていたか			10%	
教科書		志村聡子編著(2022). 初めて学ぶ乳児保育 第四版. 同文書院					
参考図書		①三池輝久他 赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育 第1巻 睡眠・食事・生活の基本 ②林万里(2011). 優しく学ぶからだの発達. 全障研出版部 ビデオ教材：①赤ちゃんの1年(0-6か月)、赤ちゃんの1年(7か月以降) ②サクランボ坊や 1から5					

準備学習	毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加すること
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他 留意事項	
実務経験と資格等	資格：看護師、助産師 実務経験：産科経験7年間、NICU,小児科経験6年間、障害児施設5年間の実務経験あり